

不当処分粉碎！怒りの決起を！準備せよ！

80年、動労千葉の前進に恐怖する階級的報復処分を許すな。

 動労千葉は、12月24日、「79春闘、三里塚・ジェット闘争に対する不当処分抗議闘争の準備体制確立」の闘争指令第2号を発した。年内にも強行されようとしている、この不当処分攻撃は、われわれが第三回大会で確立した、8ヶ月間の激闘の勝利の確信にふまえて「国鉄35万人体制粉碎と結合した三里塚・ジェット闘争推進」80年代路線に対する政府・国鉄当局の恐怖にかられ、追い詰められた結果による報復的処分である。したがってわれわれは、この不当処分攻撃を怒りを燃やして決起し、はね返してゆかなければならない。80年代労働運動の再生、労働大改革の新たな勝利の展望を切り拓くために、今こそ断固たる決起が求められているのだ。

処分は80年代労働運動の圧殺攻撃

今回の不当処分攻撃は、なによりも、10・22、11・1の二波にわたるストライキ減産闘争が政府・国鉄当局に、いかに甚大な打撃を与えたのかということの証左であり、80年代にむかって労働連帯をかかげた動労千葉の闘いの方向性こそが、体制的危機下の労働運動を真に戦闘的に切り拓くものであることを示している。

われわれの、二波のストライキを頂点とする闘いが第一に、三里塚二期工事強行着工、反対同盟解体策動の強まりという緊迫化した状況下で、闘う側に有利な情勢を切り拓いたこと。第二に、森山前運輸相発言による79春闘処分凍結スト禁止体制下において、それをうち破り国労、動労中央の労使協調路線への屈服のなかで、35万人体制攻撃を強行せんとする国鉄当局の前にたちはだかり、

国鉄労働運動の新たな流動化、活性化を促進したこと。第三に、労働運動の右翼的労働戦線統一、産報化策動を左の側からまき返す突破口を切り拓くものであること。したがって、この不当処分攻撃は体制的危機を侵略と反動政策をもってのり切りとうとする大平・自民党政府、35万人体制をやりとげなければならぬ国鉄当局、右翼的労働戦線統一をもって延命せんとする右翼的労働幹部、当局の「武装親衛隊」として企業防衛主義に変質し、唯一動労千葉破壊、動労私物化を画策する「本部」反動革マル分子等々密集する反動の一体となった動労千葉解体破壊策動なのである。

反処分闘争の爆発をもって勝利の80年へ！

全組合員の皆さん、いまや事態は鮮明である。動労千葉に対する不当処分・弾圧は、誰が労働運動の前進の為に闘うものであるか、誰が労働運動の阻害者であるかをはっきりとさせた。国鉄当局

の「武装親衛隊」となり、動労千葉への処分を煽る「本部」反動革マル分子をいかなる意味においても許すことはできない。

12月22日、貨物合理化の典型である、第2の「武蔵野操車場」ともいえるべき北上操車場開業に反対した国労仙台に不当処分攻撃が行われた。

われわれは、国労仙台の闘う仲間90名に対する不当処分攻撃をわが身にかけられた攻撃として受けとめ共に闘わなければならない。

反処分闘争の勝利をもって、政府・国鉄当局、「本部」反動革マル分子による、動労千葉組織破壊攻撃を粉碎し、数倍する組織強化をかちとり、35万人体制攻撃粉碎、三里塚ジェット闘争勝利の突破口を築こう。

ランニングマタリ

「幕張支部・36才・検査係」
 聞いたときは怒りしんとくに達した。この怒りは体で表現したい気持ちだ。

「津田沼支部・29才・事務係」
 頭に来た。あのやり方は、組合ではない。許せないの一言だ。

動労千葉10大ニュース 水4位 4.17津田沼襲撃 (72名中、49名)

